

令和2年度使用教科用図書の採択結果と理由

各教科 採択出版社	主な採択理由 (内容・表現, 構成・配列, 分量, その他)
<p>国語</p> <p>光村図書出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終わりごとに「たいせつ」として国語科の基礎基本となる内容が示されている。巻末には「たいせつ」をまとめたものや、「学習に用いる言葉」が整理して示されている。 ・第2学年以上では、巻頭において学習内容が領域ごとに、前学年での学習内容とともに系統立てて示されており、子供の学習意欲の向上に資する構成となっている。 ・第2学年以上では、「情報の扱い方」に関わる教材が「考えるときに使おう」「関係をとらえよう」「集めるときに使おう」「調べるときに使おう」と系統立てて設定されている。 ・第3学年以上の説明的文章の学習では、本教材の前に練習教材が取り入れてある。 ・第1学年の新出漢字については、硬筆体で示されており、入門期の子供が書くための配慮がなされている。第2学年までは、文節ごとの分かち書きが採用されており、低学年の子供が読みやすくなる配慮が行われている。
<p>書写</p> <p>光村図書出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、巻頭に書写の学習に向かう意識を高めることができる「しゅしゃたいそう」が設けられている。鉛筆の持ち方や用紙を押さえる手の位置が実物大で示されている。 ・第3学年以上では、「学習の進め方」が、考えよう・確かめよう・生かそうの3段階で示されており、学習の流れがとらえやすくなっている。 ・第6学年では、「書写ブック」として6年間で身に付けた書写の力が示されており、身に付けた力を確かめながら生かすことができる構成になっている。 ・「ふりかえろう」欄が設定されており学習目標に対する振り返りが行いやすくなっている。 ・第6学年の巻末では、発展的な内容として中学校の内容である「行書」が紹介されている。動画資料のあるページには、二次元コードが示されている。
<p>社会</p> <p>東京書籍 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との関連が分かるように、教科書下部に「教科関連マーク」で他教科の内容が示されている。 ・見方・考え方を表すキャラクターのイラストと問いが適宜示されており、見方・考え方を働かせて問題解決的な学習を進めることができる。 ・学習指導要領の各学年の「内容の取扱い」に「選択・判断」が示されている箇所を中心に、社会的な事柄に参画・提案する「いかす」の場面が設定されている。 ・「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の仕方が教科書左ページに毎時間示されているため、見通しをもって問題解決的な学習に取り組みやすい。 ・第3学年から第5学年の巻末に学びの振り返りのページがある。そのため、自分たちが働かせた見方・考え方を振り返りやすくなっている。
<p>地図帳</p> <p>株式会社 帝国書院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の成り立ち、方位、地図記号、距離の求め方などが巻頭に詳しく説明されている。 ・方位や地図記号などは「地図のやくそく」でキャラクターの吹き出しや大きなイラストを用いて分かりやすく説明されている。 ・田や畑などが地図記号で示されていたり、地域の代表的な生産品（工業製品・特産物）について簡単な記号と文字で表されていたりしており、情報量が豊富で調べ学習で活用しや

	<p>すい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の索引は赤字が県庁所在地，青字が歴史地名，緑字が世界遺産，黒字がそのほかの地名となっている。多くの色で分けられているため，地名を探しやすい。
<p>算数</p> <p>株式会社 新興出版社 啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすい字体のユニバーサルデザインフォントが採用されている。カラーユニバーサルデザインの観点から見極めることが困難な配色を避け，色だけで判断する問題は取り上げないなどの配慮がされている。 ・巻末の切り取り教具には場面に応じて，丈夫な厚紙や透ける薄紙，プラスチック素材等が使用され，児童が操作活動を通して実感を伴った理解がしやすいように配慮されている。 ・国語の接続詞や社会の人口・予算，理科の折れ線グラフなど全教科・領域に関連する題材が取り扱われており，教材の選定に配慮されている。 ・「買えますか？買えませんか？」や「見積もりを使って」では，日常生活に関連した問題場面において，概数や見積もりを活用して総合的な判断ができるように全学年で取り上げられている。
<p>理科</p> <p>教育出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に示されている問題を見いだす際に比較の考え方が用いられていたり，予想や仮説，観察・実験などの方法を振り返って再検討されていたりと，理科の学習の流れを意識しやすくなっている。 ・話型を例示した「自分たちの考えを伝え合い，学び合おう」が設けられている。 ・学習単元や上学年の単元との関連が示された「学習のつながり」が各単元の冒頭に示されている。探究的な内容が紹介された「チャレンジ」が単元末に設けられている。発展内容を取り上げた「ステップアップ」や，実社会での活用場面を紹介した「科学のまど」が設けられている。 ・地震や河川増水による被害について複数取り上げられ，災害に対する備えが紹介されている。取り上げている災害の写真は前後の変化を捉えやすいものが多い。
<p>生活</p> <p>東京書籍 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培単元では，成長の変化を比較できるよう，変形版ページが設けられ成長過程を近接するページに写真等でまとめることにより，成長の変化が紹介されている。 ・五感を使って生活科カードを書く方法が紹介されており，学んだことを発表する活動が随所に設定されている。 ・児童の活動を支援し，思考を促すキャラクターからのヒントが適宜掲載されている。 ・発展的，選択的に活用できる「やってみよう」のページが設けられている。 ・ページ右隅に調べ方やまとめ方等，児童の深い学びの姿が具体的に示されている。 ・ページ右隅に「やくそく」として見学や観察，片付け等のルールが図で示されている。 ・下巻には，他教科との学習のつながりがコラムで示されている。上巻巻頭に幼児期の学びから接続するページ，下巻巻末に中学年以降の学習へ接続するページが設けられている。
<p>音楽</p> <p>株式会社 教育芸術社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた要素や仕組みについての言葉や音楽記号等が巻末にのせられていて確認しやすくなっている。 ・読譜や演奏法などの知識・技能についてより具体的な表記がある題材もあり，身に付けさせたい力がはっきりしている。 ・曲の特徴や学習の仕方のヒントが分かりやすく表記されており，自主的に学習しやすくなっている。 ・歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞教材が題材や年間計画中でバランスよく配列されている。 ・楽譜だけではなく，歌唱・器楽・音楽作りのヒントが記載されており，教科書だけでも段階的に学ぶことができる。

<p>図画工作</p> <p>日本文教出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びに関する題材が多く、特に低9・中9・高5題材と比較的多い。鑑賞についても低4・中3・高4題材と低学年から豊富に掲載されている。 ・岡山の芸術作品（竹で作った吉備牛・備前焼・小野竹喬の絵画）も3点扱われている。また、世界にも目を向け、日本と西洋の作品を紹介する内容や、ピカソの「ゲルニカ」から平和のメッセージを読み取る内容も扱われている。 ・同じ題材でも、屋内・屋外での活動両方を扱ったり、各学校の実態に応じておこなえるように、様々な材料での活動を紹介したりしている。 ・巻頭の「教科書美術館」では、6冊とも3ページに渡り、発達に合わせたテーマで身の回りのものや美術作品まで児童の興味をひくような形や色の美しい図版を掲載している。
<p>家庭</p> <p>開隆堂出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や製作などの実習手順が、児童の視線に沿うように見開きページで横に流れるように示されている。 ・技能面の写真は、細部の理解を図ることができるように拡大写真やイラストが示されており、巻末には実物大の写真が掲載されている。 ・実習中にいつでも確認できるように、裏表紙には切り方の一覧表が掲載されている。 ・知識技能を基にして考え、判断できるように「話し合おう」や「考えよう」の中で具体的な活動が示されている。学びを言葉で表現したり、まとめたりできるように、様々な振り返りカードや活用報告書等が紹介され、記述例も示されている。 ・生活の営みに係る見方・考え方の4つの視点がマークやイラストで示されている。
<p>保健</p> <p>株式会社 学研教育 みらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「実験・実習」コーナーで、具体的な場面で実際に確かめる活動が取り上げられている。 ・巻末に第3・4学年は学習したことを生活に生かそうと思ったこと、第5・6学年は自分の夢や希望を書く欄が設けられている。 ・小单元ごとに、「まとめる・深める」コーナーがあり、学びを活用したり生活につなげたりする活動が取り上げられている。 ・実生活の場面への活用として、第3・4学年では、睡眠の必要性や良い睡眠をとるための工夫が示されている。第5・6学年では、いじめの例が示され、対処方法について取り上げられている。 ・学習意欲が喚起されるよう、学習内容を発展させる資料が「もっと知りたい調べたい」のコーナーで紹介されている。
<p>特別の教科 道徳</p> <p>光村図書出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の子供の意識の流れを基にして、人との関わり、社会との関わり、自分をみつめるというまとまりに分けて教材を配列している。 ・初めに道徳の授業の学習の進め方について説明がある。 ・漫画教材やイラスト、写真など多彩な教材が入っている。 ・1・2年で情報モラルといじめ、3～6年ではそれに加えて環境、国際理解、福祉・共生などの現代的な課題を2つ連続して配列してあり、導入の呼びかけ→教材（2つ）→コラムで構成されている。 ・複数の人物の視点や状況から考えられることが並列的に示されているものもある。 ・哲学的に考える教材が全学年で入っている。 ・教材の登場人物になったつもりで、話し合いをする体験的な学習となる問いがある。

<p>外国語</p> <p>株式会社 新興出版社 啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の導入のページには、単元の GOAL が日本語で明示されている。 ・絵を見て音声を聞き英語を推測する活動，聞くこと，話すこと等を繰り返す活動，重要表現の定着を図る活動が設定されている。 ・Chant では，文字と共に強めに読むところやイントネーションが図示されている。 ・各課で学習したことを振り返る Looking Back があり，技能面での振り返りに加えて，「英語で言いたいけど言えなかったこと」や「学習したことをどんな場面で使いたいか」等，学習過程の振り返りや活用への意欲を記述することができるようになっている。 ・子供が書き込むアルファベット用の罫線は，4 線がほぼ等間隔になっている。巻末の Word List，は基準となる青線と共に単語が表記されており，アルファベットの高さを意識しやすくなっている。
--	--